

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 南ア・トルコ追加利下げはあるのか

2020年5月18日

21日にトルコ中銀と南ア中銀の金融政策理事会が開催されます。

まずは21日20時発表のトルコ中銀から

トルコ中銀は先月22日の理事会で、大方の予想を超える1.00%の利下げを実施し、1週間ものレポ金利を8.75%としました。昨年7月の会合から8会合連続での利下げで、利下げ前の24.00%から15.25%も引き下げたこととなります。

市場はこの利下げを受けてトルコリラ売りの動きを強めました。トルコの消費者物価指数は5月4日に発表された最新の数字で前年比10.94%。新型コロナウイルスの影響で若干低下傾向も、政策金利よりもかなり高い水準で、実質金利（名目金利をインフレ率で調整したもの）は大きくマイナスとなっています。

各国とも積極的な利下げで実質金利がマイナスとなっている国も多いですが、トルコのマイナス幅はかなり大きく、リラの売り材料となりました。トルコリラは対ドル、対円ともに史上最安値を更新。ドルリラは節目の7.0000を一時大きく超え、7日に7.27台を付ける動きが見られました。

その後、トルコ当局がトルコ国内の金融機関に欧米の大手金融機関(シティグループ・UBSグループ・BNPパリバ)とのリラ取引を禁じ、資本規制への懸念が広がったことや、積極的な為替介入を行ったことなどからリラの買い戻しが入り、7.0000を割り込む動きとなっています。ただ、こうした動きはトルコリラのスポット(直物)・スワップ市場の流動性を減少することにつながりかねず、警戒感が広がっています。

こうした状況を受けて今回の発表ですが、見通しがかなり難しいところです。取引規制の影響もあって、そもそも予想数が少なくなっており、コンセンサスがどこまで出来るかが微妙です。

一部では0.50%の利下げを見込む動きが見られ、この場合実質金利のマイナス幅がさらに大きくなります。こちらはトルコリラ売り材料となります。

一方でリラが一時史上最安値を更新する動きを見せたことなどから、利下げを止めるのではという見方もあります。この場合は少しリラ買いに。

トルコ中銀は日本、英国、中国、カタールの中銀当局者と二国間通貨スワップ枠の設定について協議を行っているようです。リラ防衛と物価との乖離を考えると、利上げもありうる状況ですが、エルドアン体制で利上げは難しいと思われるなか、据え置きはありえそう。

一方でエルドアン大統領がより積極的な利下げを求めてくる可能性も否定できず、こちらはリラ売りが強まる可能性があります。見通しがはっきりしていないだけに、要注意といったところです。

続いて同日会合終了後の発表で発表時刻未定の南ア中銀です。予定されていない緊急会合であった前回はともかく、ほとんどのケースで22時10分前後の発表になっています。

4月14日に南ア中銀は緊急会合を開き、政策金利を1.00%引き下げて4.25%としました。同国にとっては過去最低水準となります。

南ア中銀は1月に0.25%、3月に1.00%の利下げを実施しており、今年3回目の利下げとなります。ラマポーザ南ア大統領が、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて3月27日から実施しているロックダウンについて、当初の4月16日までではなく、4月30日まで延長することを10日に発表。この延長を受けて南ア中銀もさらなる緩和に踏み切った形です。同国のロックダウンは厳しい外出規制を伴う厳格なもので、経済への影響も大きいことから、早急な緩和が必要とみなされたとみられます。

その後も感染拡大が続いている同国ですが、大統領は4月23日の演説で5月1日に警戒レベルを一つ引き下げ、ロックダウンの段階的解除に向かうことを発表しました。

食品・衛生用品・製紙などの産業については100%の出勤を可能とし、自動車・鉄鋼などの50%までの出勤、その他製造業の20-30%の出勤など認めるなど、経済の再開に向けた動きが広がっています。とはいえ、サービス業のほとんどが原則在宅勤務を続ける、個人の外出も必需品購入などごく一部に限られるなどの制限が続く中、今回の理事会でも利下げが行われるとの見通しが広がっています。

事前予想は0.50%の利下げで3.75%へ。南アのインフレ率はトルコほど高くなく、最新3月分で前年比+4.1%と、現状の4.25%よりも低く、実質金利はプラス圏。

今回の利下げで実質金利がマイナス圏に落ちますが、インフレ率自体も直近さらに落ちていくとみられ、トルコほどの大きな売り材料にはならなそうです。

ただ、今後のさらなる追加緩和見通しなどが示されると南アランド売りの動きも。ランド円は先月2度5円60銭前後で下値を支えられていますが、同水準を割り込みに行くきっかけとなる可能性があるだけに要注意です。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チエスマンハットン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。